

特集・新冠温泉レ・コードの湯 (株)新冠ヒルズ・白川総支配人へのインタビュー



インタビューに答えていただいた白川総支配人

先月号に引き続き、新冠温泉レ・コードの湯を特集します。
 今月は、(株)新冠ヒルズ専務取締役総支配人白川直之さんに、現在の温泉の状況についてインタビューしましたので、その内容についてご紹介します。

Q 開館し15年が経過しましたが、年間利用者数は、約何万人ですか？

A 開館1年目の日帰り温泉施設の年間利用者数は、25万人に上りました。その後、管内各地に新しい温泉が建設され、利用者数は多少減少しましたが、

現在でも年間20万人前後の利用があります。また、利用者の約3割が町民の方方で人口5700人で計算すると、町民一人あたり年間10回以上利用していただいている計算になり、町民に支えられている施設であると実感しています。宿泊部門についても、年間通しての利用率は7割程度で、安定した集客を得ております。宿泊施設の利用者はリピーターも多く、道内外にファンが多いのもこの温泉の特徴です。

Q リピーターが多くいる新冠温泉の一番の魅力は何なのでしょう？

A まず一番の魅力は、何といってもこの施設のロケーションです。客室や大浴場からは広大な太平洋が見渡せ、ホテルの後ろには日高山脈がそびえています。海と山に囲まれたこのロケーションは、他に真似のできない財産です。また、お客様が気持ちよく施設を利用していただけるように、普段から清掃を

徹底しています。初めて来られたお客様の中には「最近できたの？」と尋ねる人もいるくらいです。

Q 以前ほど収益が上がっていないという話も聞いていますが、どのような問題があると考えられますか？

A 収益が上がっていない一番の要因は、燃料費の高騰です。開館当初の重油の価格は、1リットルあたり35円程度だったものが、現在は約100円と3倍に跳ね上がっています。温泉はご存じのとおり大量の燃料を使用する施設です。年間に使用する総量は約4万リットルで、この燃料の値上がりが経営悪化の一番の要因となっています。また、最近では電気料の値上がりも深刻で、節電や照明器具のLED化などの対策により、電気使用量は下がっているのですが、電気料金は上がってしまっている状況です。

しかしながら、温泉部門だけをみると厳しい状況ですが、飲食部門や宿泊部門は、安定して収益を確保できており、今後も施設全体で知恵を出し合い、状況を改善していきたいと考えています。

Q 以前に比べると、お土産やお総菜のコーナーが格段に広くなりましたが、どのような商品が人気ですか？



充実した売店コーナー

また、最近では地域の人たちが気軽に購入できるよう、近隣で採れた野菜や魚、お総菜などの販売についても積極的に展開しています。

利用者の中には町の健康推進バスなどを利用して、各家庭からまっすぐ温泉

に来館されるお客様がいます。そのようなお客様の中には、交通手段が無く地域の商店などに行くのも大変な方がいらっしゃいます。

そこで、温泉で調理した煮物や揚げ物などのお総菜を販売し、家庭に帰ってからも簡単に食事ができる商品の販売を始めたところ、非常に喜んでいただいております。もちろん、仕事帰りの働き盛りの方々にも好評です。

Q 最近、温泉で力を入れていることは、どのようなものがありますか？

A 温泉では、地域の食材を使った食事を楽しめる各種宴会プランを用意しておりますが、これまでは主に、歓迎会や忘年会などの職場での宴席の場として多く利用されてきました。

そこで、各家庭での記念日などにも利用していただけるよう、サービスに力を入れていくところです。

例えば、還暦などの長寿の祝いには、ちゃんちゃんこを貸し出したり、お子さんの1歳の誕生日のお祝いには、一升餅を準備したりしています。また、結婚記念日、入学や卒業のお祝いなどの記念日にケーキや花束を発注するなど、思い出になる時間を過ごしてもらえよう、一人一人のお客様にあわせたサービスを行っています。

Q 季節ごとにイベントが開催されているようですが、どのように企画をしているのでしょうか？

A 5年ほど前から、担当を各部署から選出し、8人程度でプロジェクトチーム



夏恒例イベントとなった流しそうめん

を編成し企画を考えています。

企画の対象は主に地元の人や日帰り温泉利用のお客様で、これまでに秋の味覚を堪能できる「秋のバイキング」や節分にあわせた「豆まき」などを企画しました。また、昨年12月25日には、レ・コード館の町民ホールを使用して、クリスマスバイキングという一大イベントを開き、町内だけではなく、日高管内からたくさんのお客様に来場していただきました。

これも、今までレストランなどで続けてきた規模の小さなバイキングなどの取り組みの中から、職員がノウハウを学び、それらの積み重ねから、ここまで大きな企画を開催できるようになりました。

現在の職員は、厳しい会社状況をよく理解し、自分たちに何ができるかを真剣に考え、職員全体で温泉を盛り上げていこうという雰囲気があります。

これからも、町民の皆様に愛される施設となるよう、職員一同、日々努力をしていきたいと思います。

新冠温泉のファン「早川ゆきおん」に聞く

自分は温泉が大好きで、新冠温泉にはいつも主人と行っています。季節によっても違いますが、畑仕事の少ない冬期間は毎週通っています。

役場の健康推進バスを使って温泉に行きますが、まず、温泉に向かうまでの山や畑、海の景色をゆったりとバスの中から楽しみます。また、バスで一緒になる、人たちのお話やニュース交換などの交流も楽しみの一つです。

1時間30分ほどバスに揺られ、温泉に到着すると職員の皆さんが笑顔で迎えてくれます。そして、大浴場に向かい、まずは、寝湯にゆつたりとつかります。そして、泡の出る気泡浴（ダブルバス）に入り、最後に約40度のお湯につかり、お風呂の時間は終了です。

長湯ができないので、すぐにお湯からあがってしまいますが、それでも、十分に温泉の効能があり、冬は夜まで体がポカポカしています。



温泉の座敷でくつろぐ早川夫妻

11時30分になると昼食の時間です。お気に入りのメニューは、主人は野菜がたくさん入ったラーメンサラダ、私は醤油ラーメンです。

お腹一杯になった後は、バスがでるまで持参した枕で一休み。そして、帰りもおしゃべりと景色を楽しみながら、家路に向かいます。

息子が東京から帰って来たとき、親戚が本州からやって来たとき、みんな喜んで温泉に泊まります。我が家はみんな新冠温泉の大ファンです。

自分にとって、温泉は最大の娯楽であり、最大の交流の場です。そして、この温泉での時間は、ものすごくぜいたくな楽しみだと感じています。

この地区に入植した諸先輩方には、温泉が大好きな人がたくさんいます。自分も先輩たちと一緒に温泉に泊まりに行ったことを思い出します。もし、新冠温泉が昔からあったら、きっとみんなで一緒に通ったと思います。

でも、残念ながらそれは叶わないので、私たちはこれからも先輩たちの分までこの新冠温泉に通い、素敵な時間を過ごさせていたただこうと思います。